夢童（ゆめわらわ）

菅波　茂

2000、6、1

国際医療センター構想

現在、東京・新宿に「国際医療センター」がある。目的は日本から発展途上国への医療援助の支援に派遣される医療要員を養成し、プールしておく医療機関である。岡山に医療支援を必要とする発展途上国の医師の研修を目的とする「国際医療協力センター」の設立を提案したい。理由は岡山大医学部と川崎医科大の高い医療技術に加え、医療・福祉に対する県民の感受性の高さを背景とした地域振興が期待できるからである。

受け入れ対象は文部省奨学金によって大学院教育を終え、母国で活躍している医師と、内視鏡技術などに代表される日本の先端医療技術を研修したい現地の医師たちである。

「国際医療協力センター」は二つの福音を岡山の地にもたらす。一つは今後ますます増加する在日外国人の西日本での基幹医療機関になることである。だれでも病気になれば、言葉や習慣を理解してくれる母国の医師にかかりたい。二つめは海外医療ビジネスの展開である。かれらは母国で有力な人脈を持っており、尊敬される地位にある。彼らをビジネスパートナーとして、岡山の持つ高度な医療技術にODAの資金を加えて、事業を展開する。「アジアの医療ハブ」としての医療立県構想へと夢が広がる。良きモデルにしてライバルは人口300万人のシンガポールである。しかし、岡山県は人口180万人にして、医科大学、医学部の計二つもある。

バングラデシュー日本友好病院は日本に留学した3人の医師たちによって、6年前に設立された30床の一般病院である。私はこの理事会の議長をしている。2001年からはバングラデシュで最初の心臓手術の可能な民間病院へと飛躍する。良き成功モデルである。

国際医療貢献と国際医療ビジネスの中核施設は同一である。飛び出せ！岡山。

（アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者）